

科目名	計量行政学（2クラス）
担当者	山田 治徳
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	<p>わが国の公共部門を巡る諸環境が変化するなか、科学的、合理的手法に基づいた行政運営や政策形成が求められるようになってきています。こうした状況において、行政評価や政策評価、政策分析など、公共部門の活動に関わる分析に対する関心が高まってきています。本講義は、これらの評価や分析に関わる計量手法の有用性を理解するとともに、手法の習得を目的として行います。</p> <p>「計量」と聞くだけで、本能的に拒絶反応を感じるかもしれません。文科系の学生が統計関係の科目に嫌悪感をおぼえることが多いのは、教え方が学問的な厳密性に重きを置きすぎているためであると言われていています。確かに知識を正確に伝授することは必要ですが、それで「数字アレルギー」を増やしてはどのようなありません。そこで本講義においては、統計学的な厳密性よりも、統計的な手法の行政・政策分野における有用性の確認とその実務への応用を重視する講義にします。具体的には、如何なる手法が有益なのか、またその分析結果の解釈方法などについて重点を置きます。したがって数学的に高度な知識は必要ありません。また、単に理論の説明や事例の紹介に終わらせるのではなく、実際に統計分析ソフト SPSS を用いたパソコン実習を行うことで、より実務性、実践性を重視した内容とします。パソコンの操作についても講義中にガイダンスを行いますので、高度な知識は前提としていません。</p>
授業の到達目標	行政、政策分野における計量手法の有用性を理解したうえで、各々の手法の特徴、見方を理解し、実際の分野において計量分析を用いることができるようにする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ計量分析なのかー数字の意味とパワー <ul style="list-style-type: none"> ・測定と尺度、相関係数 2. 関連性の測定ークロス表の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・カイ二乗検定、ガンマ値 3. 検定の基礎概念 <ul style="list-style-type: none"> ・標準化、標準偏差、帰無仮説 4. 仮説の検定ーこの違いは変化と言えるのか <ul style="list-style-type: none"> ・差の検定、分散分析 5. 単回帰分析ー因果関係の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・回帰分析の基礎 6. 重回帰分析ー複数の政策手段からの選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ダミー変数を用いたモデルまで 7. 多変量解析ー多量のデータを分析する <ul style="list-style-type: none"> ・主成分分析

教科書	特定の教科書は使用しませんが、毎講義時にレジュメを配付します。また必要に応じ、資料を配布します。	
参考文献	東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」（東大出版会）	
成績評価方法	割合	評価基準
	試験 %	教場試験（in-class exam）は行いません。
	レポート 50%	期末レポートにより行います。評価は授業の到達目標の観点に基づき行います。
	平常点評価 30%	数回のホームワークの提出状況およびその内容をもとに評価を行います。
	その他 20%	出席状況により評価を行います。 したがって、やむなく授業を欠席する場合は必ず申し出て下さい。
関連 URL		
備考		